

第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

事業所名：富山市立婦中熊野保育所

第三者評価機関名：社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

評価確定年月日：平成 28 年 3 月 28 日

1. 概評

◇ 特に評価の高い点

1. 会議を上手く活用した組織運営

・所長は保育計画や保育所だよりの作成時に計画の評価や分析を行っている。年齢別会議や3～5歳児縦割り会議・全体会議など年間を通して職員から意見を聴取し、保育の質の向上に努めている。労務の効率化や業務の改善については、人事・労務・財務などの面から分析を行い、主査・リーダー会議を適時に実施して人事配置・職員の環境整備などに取り組んでいる。さらに、各部署にリーダーを配置するなど、業務の効率化や改善などに取り組んでおり、その結果が成果で示されている。

2. 積極的な研修会参加による職員のスキルアップ

・所長は職員一人ひとりに合った研修計画を作成し、研修終了後は翌日朝のミーティングで報告し職場回覧で共有化を図っている。研修機会は正職員・非正規職員(嘱託職員・臨時職員)を問わず全職員が対象とされ、年間計画の中に職員の希望欄を設け、意欲を持った職員が優先的に参加できるような配慮も行っている。

3. 活発な関係団体や地域との交流

・保育所では児童虐待の防止や早期発見に努め、関係機関との連携や問題解決のための具体的な体制を確立している。
・年間を通して年長児と小学校5年生との交流を行っており、小学校教諭の保育所訪問と連絡会をそれぞれ年間一回実施している。また、地域の老人会(福寿会)と連絡を取りながら、年間5回のふれあい事業を計画し実行している。さらに地域住民との交流も活発であり、園児の稚児舞指導・近所の畑を借りてのイモ苗の植え付けから収穫までの体験・伝承遊び指導・もちつき会・初釜など、地域で子どもを育てる環境づくりを進めている。定期的にひまわりだより(回覧用)を作成し、地元の保育所としての理解や親しみを感じてもらえるよう行動している。

4. 一時保育の充実

・独立した一時保育の部屋が完備しており、積極的に子どもを受け入れている。落ち着いた環境の中で保育士と穏やかに過ごしており、子どもの精神的安定・安全を優先して保育にあたっている。また、他のクラスとの交流も行っており、保育士との関係を重視した保育を行っている。

◇ 改善を求められる点

1. 各種マニュアル類の見直しと継続的なサービスの実践

・保育理念は、『豊かな環境の中で遊びながら、いろいろな可能性を育む』である。その他、4項目の保育目標と7項目の保育方針がある。しかし、保育所重要事項説明書の運営方針・富山市子育て支援課の基本理念・目標との連動性や整合性面で差異が生じている。保育所の目指す方向を再検討されることが望ましい。また、利用者(保護者)などに理念や基本方針の周知に関する継続的な取り組みに期待したい。

・修了児は秋の運動会でリレーに参加するなど継続的な関係を維持しているが、加えて転所児や家庭移行児の継続的な支援にも期待したい。また、社会福祉事業の動向や福祉ニーズのデータなどの収集は行政機関で行っているが、保育所として記録や保存などの工夫が望まれる。

・感染症や安全対策に関するマニュアルなどは整備されているが定期的な見直しは行われていない。災害想定避難訓練などは消防と連携で実施されているのでその都度、振り返ってマニュアルの見直しが行われることを期待したい。また、地域の関係機関からの情報を収集しているが資料作成やリスト化に至っていないので、この分野の資料作成やリスト化が待たれる。

2. ケース会議などの充実

・職員会議や保育が終わった後の日常会話の中では、気になる子どもについて話し合いをしているが、特定の子ども一人ひとりのケース会議を計画的に設けていない。職員会議の中でケース会議の時間を持つことは、子どもの援助や配慮などの共通意識が持て、記録することでしっかりとした目標が明らかになることや、記録を振り返り反省・評価も可能になるので今後の保育に生かしてほしい。

3. コーナー遊びの工夫

・保育室が狭くコーナーを作り自由に遊べる空間がないのは残念なことであるが、子どもたちが今何に興味を持っているのかなど十分に子どもの姿を観察し、どんなコーナーが子どもの遊びを発展させるかについて検討されることをお奨めしたい。

2. 大項目毎の特徴

1 運営管理

・保育理念は、『豊かな環境の中で遊びながら、いろいろな可能性を育む』である。保育目標は、『保育所での友達との過ごし方(4項目)』更に、保育方針は、『情緒の安定・心身の安定・子ども一人一人の人間性の育成・社会性や豊かな心情と思考力の育成・コミュニケーション能力の育成・豊かな感性と創造性の育成・社会資源との連携による子育て支援(7項目)』となっている。しかし、保育所重要事項説明書の運営方針や富山市子育て支援課の基本理念・目標との連動性や整合性面で差異が見られるため、保育所の目指す方向性を再検討されることが望ましい。

・保育理念・目標・方針は整合性が確保されており、職員の行動規範となるような内容となっている。理念や基本方針は会議などで職員に周知され、子どもの最善の利益とは何かなど対応ケースや実践テーマとして話し合い、主査・リーダー会議などで検討してから実行されている。ただし、利用者(保護者)などに理念や基本方針の周知状況の確認や継続的な取り組みを行っていないので、今後周知に関する一層の取り組みを期待したい。

・保育所のビジョンは保育理念・保育目標・保育方針で確認できる。しかし、保育所の中・長期計画及び中・長期収支計画は策定されていない。一方、単年度の事業計画は、予算と連動しており、予算書と実績の対比や分析が行われている。所長は職員が働く環境整備や保育の質の向上・業務の効率化や改善に向けて具体的な取り組みを行っている。

・修了児は秋の運動会でリレーに参加するなど継続的な支援や関係性を確保されているが、転所児や家庭移行児の継続的な支援は実施されていないので、継続的な支援を図りたい。

・所長は保育計画や保育所だよりの作成時に計画の評価や分析を行っている。年齢別会議や3～5歳児縦割り会議・全体会議など年間を通して職員から意見を聴取し、保育の質の向上に努めている。また、労務の効率化や業務の改善については、人事・労務・財務などの面から分析を行い、主査・リーダー会議を適時に実施して人事配置・職員の環境整備などに取り組んでいる。さらに、各部署にリーダーを配置するなど、業務の効率化や改善などにも取り組んでいる。

・社会福祉事業の動向や全体のニーズについてのデータなどの収集は行政で行っており、保育所としての記録・保存などの取り組みも望まれる。経営状況の把握や分析については行政監査が実施されている。

・感染症などのリスク別マニュアルは作成しているが、定期的な見直しは行われていない。保護者への情報提供は感染症以外についても不審者情報などの情報提供を行っている。安全管理に関する担当部署を設置し、リスク種類別に責任と役割を明確にした管理体制が構築されている。

・災害時の備蓄品についてはビسケットとペットボトルの水が3日分用意され、災害想定訓練は年間計画に基づき月一回以上消防と連携して実施されている。遊具においては点検チェック表を利用し安全確認を行っている。また、保育所内外で時々発生する小さな怪我については、ヒヤリハット報告書で克明に報告されている。ヒヤリハット報告書は、園全体の共通事例として共有化と検討が行われ、大きな事故の未然防止と再発防止に向けて生かされている。

・職員一人ひとりに合った研修計画が作成され、研修終了後は翌日の朝のミーティングで報告し職場回覧もされている。また、研修機会は正職員・非正規職員(嘱託職員・臨時職員)を問わず全職員が対象とされ、年間の研修計画の中に職員の希望欄も設け、意欲を持った職員が優先的に参加出来るような配慮も行っている。

2 地域の住民や関係機関との連携

・感染症情報システム(サーベランス)で流行しそうな感染症の把握に努めながら、嘱託医と常時連携が取れる体制を構築し、富山市子育て支援課・総合行政センター・西保健センターなどを通して、専門機関と連携が取れる体制も合わせて構築している。地域との連携は、熊野地区公民館事業・地区行事(稚児舞に関すること)・地区福寿会・地区行政センター(福祉課)などから情報収集を行っている。しかし、関係機関から情報を集めているが資料作成やリスト化には至っていないので、資料作成やリスト化が望まれる。

・虐待の防止や早期発見にも努めている。疑いのある場合は婦中地域福祉課などと相談しており、関係機関との連携や問題解決のための具体的な体制が確立している。

・年間3回年長児と小学校5年生との交流を行っており、小学校教諭の保育所訪問と連絡会をそれぞれ年間一回実施している。

・地域団体関係では、地域の老人会(福寿会)と連絡を取りながら、年間5回のふれあい事業を計画し実施している。また、地域住民との交流も活発で、園児の稚児舞指導・近所の畑を借りてのイモ苗の植え付けから収穫まで・伝承遊び指導など、地域で子どもを育てる環境づくりが進められている。定期的にひまわりだより(回覧用)を作成し、地元の保育所として理解や親しみを感じてもらえるよう行動している。

・実習生の受け入れに関するマニュアルが作成され実習担当者を決め、実習生やボランティア保育体験者などの意向を聞いて、意向に沿った実習が行われている。また、実習生の受け入れに当たり、効果的なプログラムを用意し、期間中は保護者に実習生の名前や出身校・実習期間などを、保育所玄関のボードや連絡帳などで伝えている。ボランティアの受け入れに関する体制についても同様に整備され、詩吟・お茶会・お話しの読み聞かせなどが計画的に行われている。中高校生・専門学校生・病院看護学校生の保育体験を始めとして14歳の挑戦など、職員の理解と誠意で確実に実行され記録が残されている。

3 子どもの発達援助

・地域に根ざした保育所で、老人会(福寿会)・ボランティア・ふるさとづくり推進委員会などとの交流が、子どもの心身の成長を育んでいる。年長児が国指定無形文化財の「稚児舞」を毎年、地域の文化祭で披露し伝承していることは、郷土を愛する心を養い達成感も与えている。

・保育所から立山連邦を背景に田園地帯が広がり、自然豊かな園庭戸外遊びが充実している。広い園庭でサッカーに興じる子ども・ままごと遊びをする子どもなど、子ども達の笑顔いっぱいの保育所である。

4 子育て支援

・一時保育を実施しており、職員保育室が設置され担当職員を配置している。一時保育室は常時利用されており、地域からの信頼も厚い。保育内容も一人ひとりの子どもに対する配慮がなされ、安全・快適に過ごしている。また、保護者とのコミュニケーションを十分にしよう努めている。

3. 各小項目にかかる第三者評価結果(ABCD評価結果) (別紙)

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受審したことで、日頃、こうした方がいいという問題意識を持ちながらも、具体的に組み立てていなかった環境設定や書類の見直し等について、各職員が声に出し合い、協力し合って進めていこうとする姿勢に変わってきた。

今後は、こういう保育所にしたいというビジョンを明確に持ち、その為には、どのような方法で実現させていくのかを検討し、計画的に取り組む組織力を持つことが課題である。

別紙 各小項目にかかる第三者評価結果（A B C D 評価結果）

大項目		
中項目	小項目	評価

1 運営管理		
(1)基本方針	①理念及び基本方針が明文化され、職員、保護者、関係者に周知するための取り組みが行われている。	B
(2)中・長期計画	①中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	C
	②中・長期計画が適切に策定されている。	C
(3)組織運営	①保育の質の向上や改善のための取り組みを、定期的な自己評価など、職員参加により行っている。	A
	②職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	A
(4)守秘義務の遵守	①守秘義務の遵守を周知している。	A
(5)情報提供・保護者の意見の反映	①情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	B
	②保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	B
	③保育サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	C
(6)安全・衛生管理	①事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されているとともに、事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	B
	②調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	B
(7)人事管理	①人事管理の体制が整備されている。	C
(8)経営管理	①予算管理の体制が整備されている。	B
(9)管理者の責任とリーダーシップ	①管理者の責任が明確にされているとともに、リーダーシップが発揮されている。	B

2 地域の住民や関係機関との連携		
(1)地域の住民や関係機関・団体との連携	①医療機関・児童相談所などとの相談・連携体制を整えるとともに、その他地域の関係機関に関する情報を収集している。	B
	②小学校、地域団体、地域住民などとの連携、交流が図られている。	B
(2)実習・ボランティア・保育体験	①実習生、ボランティア、保育体験などの受け入れ体制が整っている。	B

3 子どもの発達援助		
(1) 発達援助の基本	①保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	A
	②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	B
	③一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	④一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	A
	⑤一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	B
(2) 健康管理・食事	①登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	A
	②健康診断(歯科健診含む)の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	B
	③感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。	A
	④専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A
	⑤日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	A
	⑥食事を楽しむことができる工夫を保育士がしている。	B
	⑦食事を楽しむことができる工夫を栄養士、調理員などがしている。	A
(3) 保育環境	①子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	B
	②生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	A
(4) 保育内容	①子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	B
	②基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	A
	③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	B
	④身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。	A
	⑤さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	A
	⑥遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	A
	⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	A
	⑧性差への先入観による固定的な観念や役割分担意識を植え付けないよう配慮している。	A
	⑨乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑩長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑪障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	A

4 子育て支援		
(1)入所児童の保護者の育児支援	①子どもの発達や育児などについて、懇談会や保育参加など保護者と共通理解を得るための機会を設けるとともに、一人一人の保護者と日常的な情報交換や個別面談などを行っている。	A
	②虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、児童相談所などの関係機関に照会・通告を行う体制が整っている。	A
(2)多様な子育てニーズへの対応	①多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを活動や事業に反映している。	B
(3)地域の子育て支援	①育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	B
	②一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	A